

受付No.

## 2026年度 アートによる地域振興助成（スタートアップ）

公益財団法人 福武財団 理事長 福武英明殿

募集要項に則り、本応募用紙に記載した通り、標記助成に応募いたします。

## &lt;団体プロフィール&gt;

団体名	ちづの町と森の演劇祭実行委員会				
住所	〒689-1403 鳥取県八頭郡智頭町南方246				
団体区分	実行委員会	スタッフ数	8名		
代表者氏名(カナ)	ヨネイケイ	役職	委員長	年代	50代前半
代表者氏名	米井 啓				
団体URL1					
団体URL2					

## &lt;申請者・実務担当者&gt; ※団体所在地と同じ場合は「同上」\*申請者には、助成に関する諸手続きの連絡担当者の名前を記入してください。

申請者氏名(カナ)	ヨネイケイ	役職	委員長／舞台制作者 ※別の活動名：齋藤啓	年代	50代前半
申請者氏名	米井 啓				
連絡先 e-mail	chizutheatrefestival@gmail.com	電話番号	090-1115-0487		
住所 (書類の送付先)	同上				

## &lt;プロジェクトリーダーの略歴&gt; ※アートプロジェクト等の運営経験や当時の役割を記載してください。

氏名(カナ)	ヨネイケイ	役職/肩書	委員長／舞台制作者 ※別の活動名：齋藤啓	年代	50代前半
氏名	米井 啓				
年(西暦) 月	略歴(活動内容)				
1996年7月	イギリス・ウォーリック大学社会学部 卒業				
1998年9月	イギリス・エジンバラ大学大学院社会科学科修士課程 修了				
2000年12月	有限会社ライトシップに舞台照明技術者として勤務(～2006年1月)				
2006年5月	鳥取県に移り、鳥の劇場の立ち上げに参加。主に制作業務を担当				
2008年2月	特定非営利活動法人鳥の劇場 理事(～2016年12月)				
2013年2月	舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM)の設立に発起人として参加。理事を務める(～2023年3月)				
2016年12月	鳥の劇場を離れ、フリーランスの舞台制作者として活動				
2018年3月	文化庁新進芸術家海外研修制度によりスコットランドに滞在(～2019年2月)				
2020年1月	ロームシアター京都の事業チームで自主事業の制作を担当(～2023年3月)				
2023年4月	鳥取県智頭町に戻る。2025年5月からNPO法人智頭コミュニティ劇場代表理事				

## &lt;福武財団の助成実績&gt;

助成を受けて活動した年度

## &lt;外部協力者の状況&gt;

氏名	年代	組織名	所在地(市町村まで)	協力内容(できるだけ具体的に)
草刈満男	70代	智頭町文化協会 会長	鳥取県八頭郡智頭町	実行委員会への参加／共催(広報面での連携・協力)
大谷一郎	50代後半	智頭町百人委員会 教育・文化部会 事務局担当(智頭町教育委員会)	鳥取県八頭郡智頭町	住民が主体となり町運営に提案を行い、自ら実施していく智頭町独自の取り組み。本事業の発端も百人委員会での提案から
渡部万里子	60代後半	特定非営利活動法人こども未来ネットワーク 理事長	鳥取県倉吉市	乳幼児に演劇体験を提供するアートスタートを県内で推進。幼児向け作品の公演実施協力
中島諒人	50代後半	演出家／特定非営利活動法人鳥の劇場 代表理事	鳥取県鳥取市鹿野町	劇団として作品上演を行っていただいたほか、作品招聘での連携、機材協力など
菅原直樹	40代後半	演出家・劇作家／劇団「OibokkeShi」代表	岡山県勝田郡奈義町	智頭町の県境をはさんだ隣町で活動。作品上演、ワークショップの講師を担当

### <活動内容・事業計画について>

表現手法	演劇・ダンス
活動テーマ	へき地（の地域振興）
事業名	ちづの町と森の演劇祭 2026
2026年度の活動期間	2026/07/03 ~ 2026/07/26
活動に従事するスタッフ数	8名

#### 1. 団体の活動の概要

<p>智頭町百人委員会教育・文化部と智頭町文化協会の有志メンバーが中心となって本実行委員会を設立。2024年7月に「ちづの町と森の演劇祭」を初開催。鳥の劇場による上演、デンマークの劇団による幼児向け作品の上演、そして落語公演を行った。今年7月の2回目開催では、岡山県奈義町を拠点に活動するOiBokkeShiによる上演を病院施設の共有スペースで行ったほか、町内の新田集落で長年演じられてきた人形芝居の上演、ビッグバンドのコンサートを実施した。今年度からは、若手演出家・私道かぴ氏によるリサーチを始め、将来的に智頭町を題材にした作品創作に取り組む。演劇祭の継続実施により、町内での舞台作品の鑑賞機会を定着させていく。</p>
---

#### 2. これまでの活動の沿革

申請事業の活動年数	1～2年	
年（西暦）	月	活動内容
2024年	5月	ちづの町と森の演劇祭実行委員会設立
2024年	6月	「老いと演劇のワークショップ」（講師：菅原直樹）実施（主催：智頭町百人委員会教育・文化部）
2024年	6月	昭和40年代まで智頭町にあった「智頭劇場」をめぐる町歩きを実施（主催：智頭町百人委員会教育・文化部）
2024年	7月	「ちづの町と森の演劇祭」を初開催
2024年	12月	トークシリーズ「劇場のある町」その1・その2開催（主催：智頭町百人委員会教育・文化部）
2025年	1月	「智頭の放課後表現クラブ」を実施（3月まで／主催：智頭コミュニティ劇場）
2025年	5月	NPO法人智頭コミュニティ劇場を設立。演劇祭の運営も担う
2025年	7月	「ちづの町と森の演劇祭 2025」を開催
2025年	9月	ちづ保育園にてアートスタート公演実施（主催：NPO法人智頭コミュニティ劇場）

#### 3. 活動エリアについて

活動エリア	鳥取県 八頭郡智頭町
活動エリアの特色（歴史、文化、地域性、魅力など）	<p>智頭町は鳥取県東南部に位置する山間部の町で、岡山県と県境を接する。江戸時代は鳥取藩主が参勤交代の際に立ち寄る宿場町であり、今もその面影を残す。町の9割が森林とされ、明治時代から戦後の高度成長期までは林業によって発展してきた。平成の大合併では鳥取市との合併を選択せず、以降は「森のようちえん」や「森林セラピー」など森林資源を活かした独自の取り組みで注目されてきた。2018年には、林業を通して形成された山林と集落の景観が、国の「重要文化的景観」に選定されている。近年は移住者の受け入れにも力を入れており、「疎開保険」といったユニークな施策も実施されている。現在の人口は、約6,000人。</p>
活動エリアの課題（まず初めに、活動エリアにおける課題を簡潔にご記載ください。続けて、その課題の背景や詳細について、できるだけ具体的に記入ください。）	<p>国内の他地域と同様、鳥取県でも人口減少と高齢化が著しく進行しているが、智頭町の人口減少率、高齢化率はいずれも県平均を上回っている。また、町の中心産業である林業の衰退も続いており、後継者不足とともに、人工林の維持・管理が大きな課題となっている。これらの課題の二次的な影響としてあげられるのが、町内の日常的な場における体験機会の喪失である。これは、年代によっても異なるが、特に子どもたちにとっての影響が大きい。端的に言えば、智頭町内ではできないこと、鳥取市や県外に行かないとできないことが増えている。中学校の部活動が、運動部、文化部ともに成立しなくなっているのは、その具体例の一つである。</p>
貴団体の地域に対するミッション（活動の目的）	<p>前述した体験機会の中には、文化的体験がある。これは、小学校での舞台発表から集落単位の祭り、P口による作品の鑑賞まで広い範囲に及ぶ。本事業が取り組むのは、演劇を中心とした舞台作品の鑑賞機会を増やすこと、そして子どもたちが舞台表現を体験する機会を増やすことである。それは、将来に向けた選択の幅を広げることになる。また、これは移住定住を促進する上でも重要になる。現在は子育て環境や自然環境に惹かれて移住する家族が多いが、その子どもたちが進学や就職で町を離れた後も親たちが住み続けるかは、次の課題となる。その際に、町内に文化的体験の機会があることは、定住を促す要因となるのではないだろうか。</p>



## 7. 2026年度プロジェクト評価の観点や指標をどのように設定しますか。

定性（状態的な目標）、定量（数値的目標）をお書きください。

本事業では、観客に関する指標、および地域全体への影響を測る指標を設定する。

### ■観客についての指標

観客アンケートなどを通して以下の事項を確認し、これまで2回の開催と比較し、変化を考察する。

- ・来場者数（公演ごと）
- ・来場者の属性（年齢、居住地など）

### ■地域全体への影響

- ・演劇祭自体の認知度
- ・上演が町内の会場（特に「ちえの森 ちづ図書館」）とその会場の一般利用者に及ぼす影響
- ・私道かび氏の滞在による地域への影響（滞在中に出会ったり関わった人への聞き取りなどを通して）

## 8. 2026年度の翌年以降の、地域に持続的に関わる中期計画と将来ビジョンをお書きください。

※一般申請者は、その計画・ビジョンの展開がこれまでの活動の積み重なりどのように紐づいているかと、その展開に事業や運営体制をどのように反映していくかについてもお書きください。

### ■「ちづの町と森の演劇祭」について

中期では鑑賞機会の拡大を目指して開催を継続しつつ、上演以外の波及効果も生み出せるようプログラムの幅を広げていく。

#### 【中期：～2028年】

- ・2027年度以降も継続実施を目指す。
- ・公演数、上演会場を徐々に増やし、智頭町内の全6地区に会場を設けられるようにする。

#### 【長期：～2030年】

- ・鳥取市鹿野町の鳥の劇場などで開催される「鳥の演劇祭」との連携を継続しつつ、広域での観客拡大を目指す。
- ・上演作品の多様化を図り、実験的な表現に取り組む作品、ジャンル横断的な作品なども取り上げる。
- ・上演以外のプログラムも行き、議論の場、学びの場として機能させるほか、智頭町を訪れる観客や上演団体が智頭町を楽しめる仕掛けを作る。

### ■それ以外の活動について

劇場スペースの運営を始め、通年での活動を行うための基盤づくりを図りながら、長期には事業の次世代への継続を視野に入れた取り組みを行う。

#### 【中期：～2028年】

- ・NPO法人智頭コミュニティ劇場の活動を軌道に乗せ、活動を定着させる。
- ・劇場スペースとして活用できるスペースを整備し、そのための資金調達を行う。
- ・全世代を対象とする芸術体験の場「表現クラブ」を本格実施する。
- ・劇場運営と公演の制作を担える人材を配置する（フルタイムで1名）。
- ・レジデンス事業の本格実施を行い、創作と鑑賞の循環構築を目指す。

#### 【長期：～2030年】

- ・智頭コミュニティ劇場としての年間プログラムを策定し、通年の活動を行う。
- ・短期レジデンス以外にも、アソシエイト・アーティストなどの形を通して舞台芸術の創り手の参画を受け入れる。
- ・活動を引き継いでいくための人材育成に着手する。

## 9. 2026年度以降、複数年の助成を希望していますか？

はい

<活動の様子>



ちづの町と森の演劇祭 2025 新田人形浄瑠璃相生文楽による上演 (7月6日、智頭町総合センター大集会室)



同上 トーク「私道さんの『智頭町のはなし』」(7月19日、ちえの森ちづ図書館)



同上 OiBokkeShi「恋はみずいろ」(7月21日、智頭町保健・医療・福祉総合センター「ほのぼの」)

